

エグゼクティブサマリ

インターネットは、私たちの日常生活をさまざまな面で支える社会インフラです。今日ではたくさんの情報サービスがインターネットを利用しており、情報社会を生きる私たちにとって、インターネットはまさにライフラインとして無くてはならない存在になりました。そのようなネットワークであるがゆえに、社会的出来事が、インターネットの振舞いに大きな影響を与えるようになってきています。

例えば、2010年1月に日本のブロードバンドトラフィック量が2割近く減少しましたが、これほど大きく、かつ継続的にトラフィックが減少した事は、インターネットの商用化以来初めての事でした。原因は、同じく1月に施行された改正著作権法で、違法コンテンツのダウンロードが違法化されたためだと言われています。この仮説の元でトラフィックの動向を分析する事で、実際にネットワーク上で何が起こったのかを詳細に把握する事ができるのです。同様に、セキュリティ面でも、社会情勢や歴史的な出来事を踏まえてインシデントを想定して備えたり、起こった事象を解析したりする事が不可欠となっています。

このように、我々サービスプロバイダは、広く社会全般の出来事を付き合いながら、実際にネットワークで起こった事象を解析しないと、インターネットの安定運用や持続的発展をもちや担保できない時代になってきたといえるでしょう。

本レポートは、IIJがインターネットというインフラを整備・発展させ、お客様に安心・安全に利用し続けて頂く為に継続的に取り組んでいるさまざまな調査・解析の結果や、技術開発の成果、ならびに、重要な技術情報を定期的にとりまとめ、ご提供するものです。

「インフラストラクチャセキュリティ」の章では、2010年4月から6月月末までの3ヶ月間を対象として、継続的に実施しているセキュリティインシデントの統計とその解析結果をご報告します。また、対象期間中のフォーカスリサーチとして、暗号アルゴリズムの2010年問題の動向、DDoS攻撃によるbackscatter観測、そして、脆弱性情報の流通動向についてご紹介いたします。

「メッセージングテクノロジー」の章では、2010年4月から6月までの13週間の迷惑メールの割合の推移と送信地域の分布、主要迷惑メール送信地域の推移を示します。また、送信ドメイン認証技術の導入状況についての報告を行います。

「ブロードバンドトラフィックレポート」の章では、上述のトラフィック変化を踏まえ、2010年5月24日から一週間のIIJのブロードバンド接続サービスのトラフィックの状況を、1年前の解析結果(IIR Vol4に掲載)と比較しながら解析し、1年間で何がどのように変化したのかを検証します。

「インターネットトピック」としては、日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J) がまとめたマネージドセキュリティサービス(MSS)選定ガイドラインについてご紹介いたします。

IIJでは、このような情報を定期的なレポートとしてお届けするとともに、お客様に、企業活動のインフラとしてインターネットを安心・安全、かつ、発展的に活用して頂くべく、さまざまなソリューションを提供し続けて参ります。

執筆者:

浅羽 登志也(あさば としや)

株式会社IIJイノベーションインスティテュート代表取締役社長。1992年、IIJの設立とともに入社し、バックボーンの構築、経路制御、国内外ISPとの相互接続等に従事。1999年取締役、2004年より取締役副社長として技術開発部門を統括。2008年6月に株式会社IIJイノベーションインスティテュートを設立、同代表取締役社長に就任。